

住み慣れた地域で 暮らし続けたいとの思いから

ハッピークラブ特定非営利活動法人

池田市 特定非営利活動法人(伏尾台地区福祉委員会 事務局)

団体概要

団体設立 ▶ 2003年8月 活動エリア ▶ 池田市内

主なサービス・活動 ▶ 介護保険サービス、街角デイハウス支援事業、介護予防教室、地区福祉委員会事務局(ふれあいサロン、カーボランティア、ワンコインたすけあい)など

事例の特徴

地区福祉委員会をもとに発展

ハッピークラブ特定非営利活動法人(以下、ハッピークラブ)は、2003年に当時の伏尾台地区福祉委員会のメンバーが中心となり、福祉サービスを行うことを目的に設立したNPO法人です。

それまで、地区福祉委員会では1996年から月1回、1998年からは週1回、ふれあいサロン※1を伏尾台コミュニティセンター第1会館で開催していました。その後、メンバーで「こんなデイサービスがあったら良い、こんなデイサービスだったら行きたい」といったことを話し合い、「親世代をいつまでも地域で支えていきたい」との思いから、ハッピークラブを設立しました。

設立以前、地区福祉委員会には拠点がなく、元委員長の自宅や担当者宅に直接連絡が入る状況でしたが、ハッピークラブが事務局を担うことで、ニーズの取りまとめや調整を行い、地域とボランティアをつなげる大事な役割を果たしています。



街かど・ふれあいサロンでは、参加者のリクエストに応じて、ボランティアがキーボードを演奏しみんなで歌います。

現在は、地区福祉委員会の元委員長が住んでいた空き家を借り、1階では定員11人のデイサービスを、2階では居宅介護支援事業を実施し、地区福祉委員会の事務局も担っています。

様々な住民が集う場づくり

地区福祉委員会主催のふれあいサロンと、ハッピークラブ主催の街かどサロン(街角デイハウス支援事業)※2や介護予防教室(池田市地域介護予防活動支援事業)※3は、対象者が異なるだけで同じ場所で同様のプログラムが行われています。

運営スタッフは、「3つの事業を同時に行うことで、会計管理は大変です。しかし、参加者同士が垣根を越えて知り合う機会となり、声の掛け合いや休んだ人を気遣う関係が生まれています」と3事業を合同で実施するメリットを話されました。

介護予防教室には、90歳を超えた元気な参加者もあり、介護予防教室に来るようになってからは、段差などの



街かど・ふれあいサロンでの手作り昼食は好評です。3つの事業を同時に開催しています。

歩行が楽になり手足の柔軟性も改善されているとのことです。

ちょっとした困りごとを解決したい

「伏尾台には坂道が多く、高齢者の移動は大変です。自宅からふれあいサロンの会場まで、たどり着くのに3回休憩をとる方もいます」と話すハッピークラブ代表理事の菊池順子さん。



伏尾台は、高台に開発された坂道の多い住宅地。近年、高齢化が進み65歳以上の高齢者の割合は39%を超えています。

「せめて、伏尾台内の移動だけでも気軽にできたら」との思いから地区福祉委員会で話し合い、約20年前から、車での移動を必要とする高齢者を対象にカーボランティアを実施しています。

ハッピークラブが事務局を担い、今では1ヶ月に50件ほど、ボランティアの調整を行い、バス停や病院、薬局、美容院などへの移送を行っています。

また、地区福祉委員会では、ちょっとした困りごとを解決する「ワンコインたすけあい」として、30分500円で簡単な家事援助(家具の移動や電球の取り替え、草抜き、ゴミ出しなど)を行っています。

菊池さんは、「誰もが抱えるちょっとした困りごとを解決し、高齢になっても、認知症になっても、いつまでも住み慣れた地域で暮らしていける仕組みをつくりたい」と思いを語ります。

また、「高齢者が必要としているのは、何気ない会話と困ったときにすぐ相談でき、助けてくれる相手です。認知症や要介護状態になっても、今までの関係を壊さず、お互い対等な立場で話し合える相手が必要です」と、住民同士の支え合いの重要性を話します。

受け手から担い手に転換

これまで健康体操や健康麻雀などの介護予防教室に参加していた方の中には、街かどサロンでご自身の特技や経験を活かし講師役を担うケースがあります。

例えば、英会話を学ぶプログラムでは、日常会話や誰でも知っている歴史上の人物の話を英訳するなど、楽しく本格的な英会話を教えています。

反対に、演奏講師として長く関わっている方が、健康の維持を目的に介護予防教室に参加するようになるなど、

一方的に支える・支えられる関係ではなく、受け手と担い手が入れ替わる双方向の関係が生まれています。

財源や担い手の確保を目指して

菊池さんは、「災害が多発する中、活動拠点の民家の老朽化が心配です。安心して事業を行うためには移転が必要になりますが、財源の確保が課題です。また、ボランティアやコーディネーター不足の悩みも抱えていますが、メンバーと知恵やアイデアを出し合いながら、今後も継続して安定したサービスを提供していきたい」と意気込みを語ります。

事例から学ぶ

POINT①

▶ 地区福祉委員会との協働

ハッピークラブが地区福祉委員会の事務局を担い、全ての職員が福祉委員も兼ねています。そのため、事業や活動の連携がスムーズに図られ、補完し合う体制・仕組みになっています。

POINT②

▶ 地域の課題を真ん中に

福祉サービスの立ち上げや、カーボランティア、ワンコインのたすけあいの実施など、地域が抱える課題を中心に据え、その解決に向けて住民・社会資源の力を活かし取り組んでいます。

POINT③

▶ 社会参加と出番づくり

様々な住民が集い知り合う場をつくり、活動への参加と新たな役割を促すことで、活動の利用者からボランティアへと転換する、双方向の関係づくりに取り組んでいます。

- ※1 ふれあいサロンは、65歳以上の要介護認定の方が対象で、伏尾台地区福祉委員会の事業。午前には脳トレや健康体操。午後からは歌や麻雀、大正琴や手芸などの趣味活動を楽しんでいます。
- ※2 街かどサロンは、65歳以上の元気な方が対象で、ハッピークラブの事業。内容は同上。
- ※3 介護予防教室は、65歳以上の要支援1、2までの方が対象で、
 - ①認知症予防
 - ②運動機能向上
 - ③口腔機能向上を実施しています。